

研究種目：基盤研究 (A)
研究期間：2006-2009
課題番号：18200052
研究課題名 (和文) オーラルヒストリーによる巨大科学の現代史資料システムの構築と共有化
研究課題名 (英文) Construction of the Archives on the modern history of Big Sciences by Oral History and its communization

研究代表者

平田 光司 (KOHJI HIRATA)
総合研究大学院大学・葉山高等研究センター・教授
研究者番号 90173236

研究分野：総合領域

科研費の分科・細目：科学社会学・科学技術史

キーワード：オーラルヒストリー、アーカイブズ。巨大科学、現代史、資源共有化、映像、資源共有化

1. 研究計画の概要

(1) 我が国における巨大科学について科学史・社会史的に調査する。文献資料では足りない点を補うために、様々なアクターの記憶をオーラルヒストリーの手法で記録し、これをアーカイブズすることによって、研究者が広く利用できるシステムを構築する。

(2) このため、組織的なオーラルヒストリーの方法を確立し、また、オーラルヒストリー (インタビュー映像も含む) のアーカイブズのありかたについても検討し、実行可能な方策をさぐる。

(3) いくつかの試行を行い、実行可能であると考えられる方法を確立し、本格的な調査を試行し、その成果を利用した歴史研究を行う。

2. 研究の進捗状況

現在では、上記 (3) の段階にあり、研究は完成段階を迎えている。自然科学を対象としてオーラルヒストリーを行う研究者グループも形成され、research question のリストも共有されるようになった。また、アーカイブズ組織とインタビュー組織の分離を行うことによって、機関アーカイブズが直接行うオーラルヒストリープロジェクトでは起こりえる問題点を回避できることが明らかになった。

最終年度である21年度には、試行的 (実証実験) なプロジェクト「KEK (旧高エネルギー物理学研究所、現高エネルギー加速器研究機構) 最初の10年」を行い、インタビュー記録を KEK 史料室にアーカイブ、保存、公開する。また、この資料を用いた、我が国における巨大科学についての科学史・社会史的な研究を試行する。

3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

インタビューからアーカイブズまでの一連の流れについて、手法を確立。試行も順調に進んでいる。本研究の課題は本質的には達成されたと思われるが、これを実証実験 (本格的試行) によって証明する段階である。

4. 今後の研究の推進方策

確立された方法を適応し、高エネルギー物理学研究所設立直後に関する科学史、社会史的な記録を作成し、KEK 史料室に保管・公開する。また、これらの資料を利用した科学史・社会史的共同研究を行い、巨大科学に対するオーラルヒストリーを用いた研究方法を学界に提示する。これによって、更なる深化を試みる事が可能となる。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計3件)

- ① 安倍尚紀、加藤直子、組織的に体系化されたオーラルヒストリー ——研究機関に基盤を沖、組織的な研究方法を用いるオーラルヒストリーの可能性——、日本オーラル・ヒストリー研究、第4巻、65-84、2008年、査読有

- ② 平田光司、大学共同利用機関におけるアーカイブズ、アーカイブズ・ニューズレター、第6巻、2-4、2007、査読無
- ③ 瀧川裕貴、科学の社会学とオーラルヒストリーの方法、科学におけるコミュニケーション2007、264-290、2008、査読無

〔学会発表〕（計3件）

- ① 高岩義信、大学共同利用機関アーカイブズ史料目録データベースの共有化、日本物理学会、2007
- ② 伊藤憲二、歴史研究の方法としてのオーラルヒストリーの理論、日本科学史学会、2007
- ③ 平田光司、オーラルヒストリーによる巨大科学の現代史資料システムの構築と共有化 --現状--、日本オーラルヒストリー学会、2007

〔図書〕（計0件）

〔産業財産権〕

- 出願状況（計0件）
- 取得状況（計0件）

〔その他〕